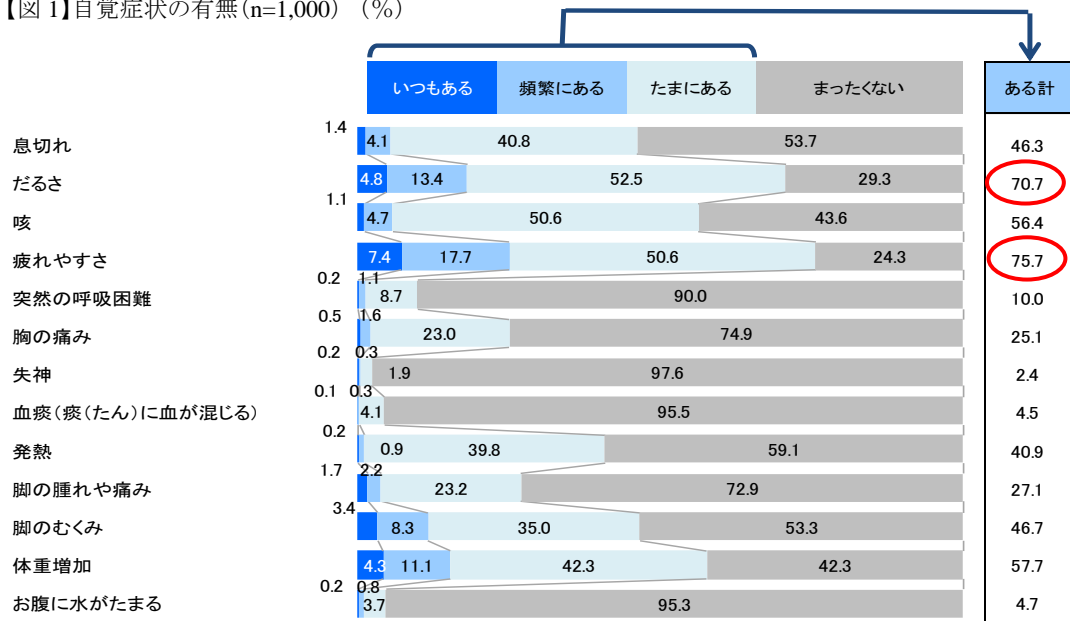


<参考資料>

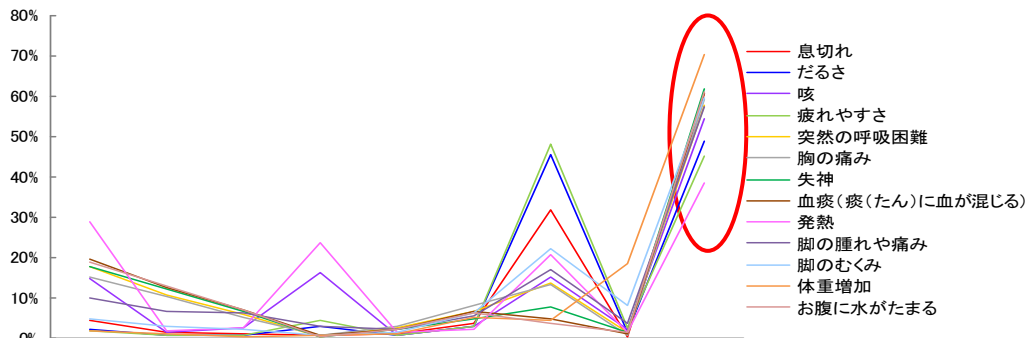
■約 7 割の人に、日頃から「疲れやすさ」や「だるさ」の症状が。それらの症状を感じても、病院に行くのは 5%以下

日頃感じる症状を聞いたところ、「疲れやすさ」や「だるさ」について、“ある”と回答した人は 70%以上と多数派でした(図 1)。しかし、「疲れやすさ」や「だるさ」を感じていても、半数近くの人が「特に何もしない」と回答しており、「専門医のいる病院に行く」、「一般病院、診療所に行く」、「総合病院に行く」とした“病院に行く計”は 5%以下にとどまりました。そのほかの諸症状についても、「特に何もしない」が 4 割～7 割を占めています(図 2)。

【図 1】自覚症状の有無(n=1,000) (%)



【図 2】症状がでた場合の対処法(n=1,000) (%)



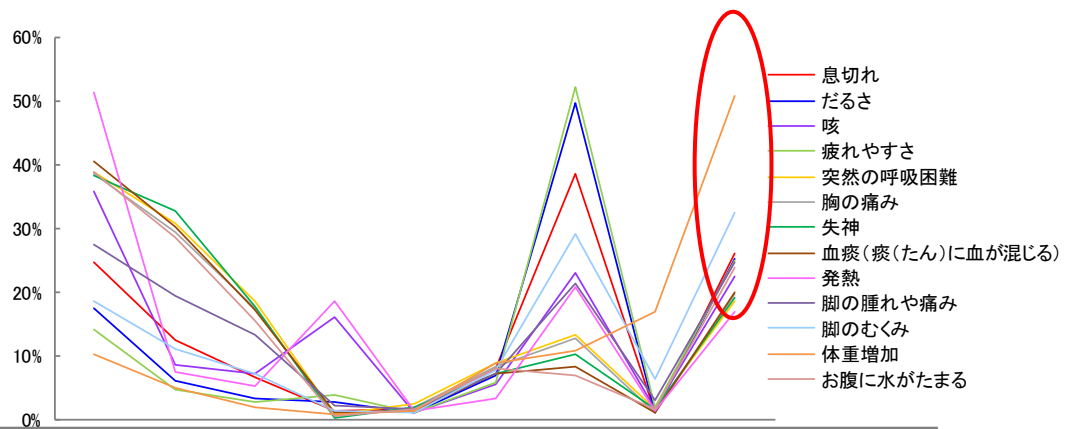
	院内科診療所に行き行く	合専門病院の科に行く	く医患い・る症状の病状に専門	市販の薬を飲む	る周囲の人に相談する	どでインターネットを集める	休息をとる	その他	特に何もしない	病院に行く計	病専門に科・専門医の計
息切れ	4.5	1.6	1.0	0.7	1.2	3.7	32.0	0.5	60.6	6.5	2.3
だるさ	2.2	0.6	0.8	2.9	0.9	3.1	45.6	1.6	49.0	3.2	1.2
咳	14.8	1.4	2.6	16.4	0.9	3.1	15.2	2.1	54.5	17.6	3.7
疲れやすさ	1.8	0.6	0.8	4.3	0.9	2.8	48.2	2.7	45.2	2.9	1.3
突然の呼吸困難	17.7	10.7	5.9	0.4	2.6	6.8	13.6	1.4	57.9	28.6	14.1
胸の痛み	15.1	10.3	5.3	0.6	2.8	8.0	13.5	0.9	59.4	26.1	13.4
失神	17.9	12.3	6.5	0.2	2.1	4.8	7.7	1.5	62.0	30.3	15.7
血痰(痰(たん)に血が混じる)	19.8	12.5	7.1	0.7	2.4	6.6	4.9	1.2	60.9	32.7	16.4
発熱	29.0	1.8	2.6	23.8	1.4	2.4	20.6	1.4	38.6	31.8	3.8
脚の腫れや痛み	10.1	6.7	6.2	2.8	2.2	5.4	17.2	3.7	57.6	20.8	11.6
脚のむくみ	5.0	2.9	2.1	0.7	1.5	6.2	22.4	8.3	59.8	9.0	4.6
体重増加	2.0	1.0	0.4	0.8	1.2	5.3	4.3	18.5	70.3	3.0	1.3
お腹に水がたまる	18.8	12.9	7.0	0.4	2.3	6.3	3.9	1.6	61.3	31.9	16.8

※横に見て ■ 1位 ■ 2位 ■ 3位

■家族に症状が表れたときは、病院に連れて行く人が増加。「体重増加」や「脚のむくみ」などの症状については3割～5割が「特に何もしない」と回答

自分の場合、「息切れ」や「だるさ」では病院に行かないと回答している人が1割満たないものの、家族に同じ症状があった場合は「息切れ」では37.2%、「だるさ」では24.9%が「病院に行くよう勧める・連れて行く」と回答しています。一方で、全般的に「特に何もしない」と回答した人も多く、特に「体重増加」や「脚のむくみ」では、3割～5割以上が「特に何もしない」という結果です。これらの身近な症状に、重大な病気が隠れているかもしれない可能性については、あまり考えられていない様子が見えます(図3)。

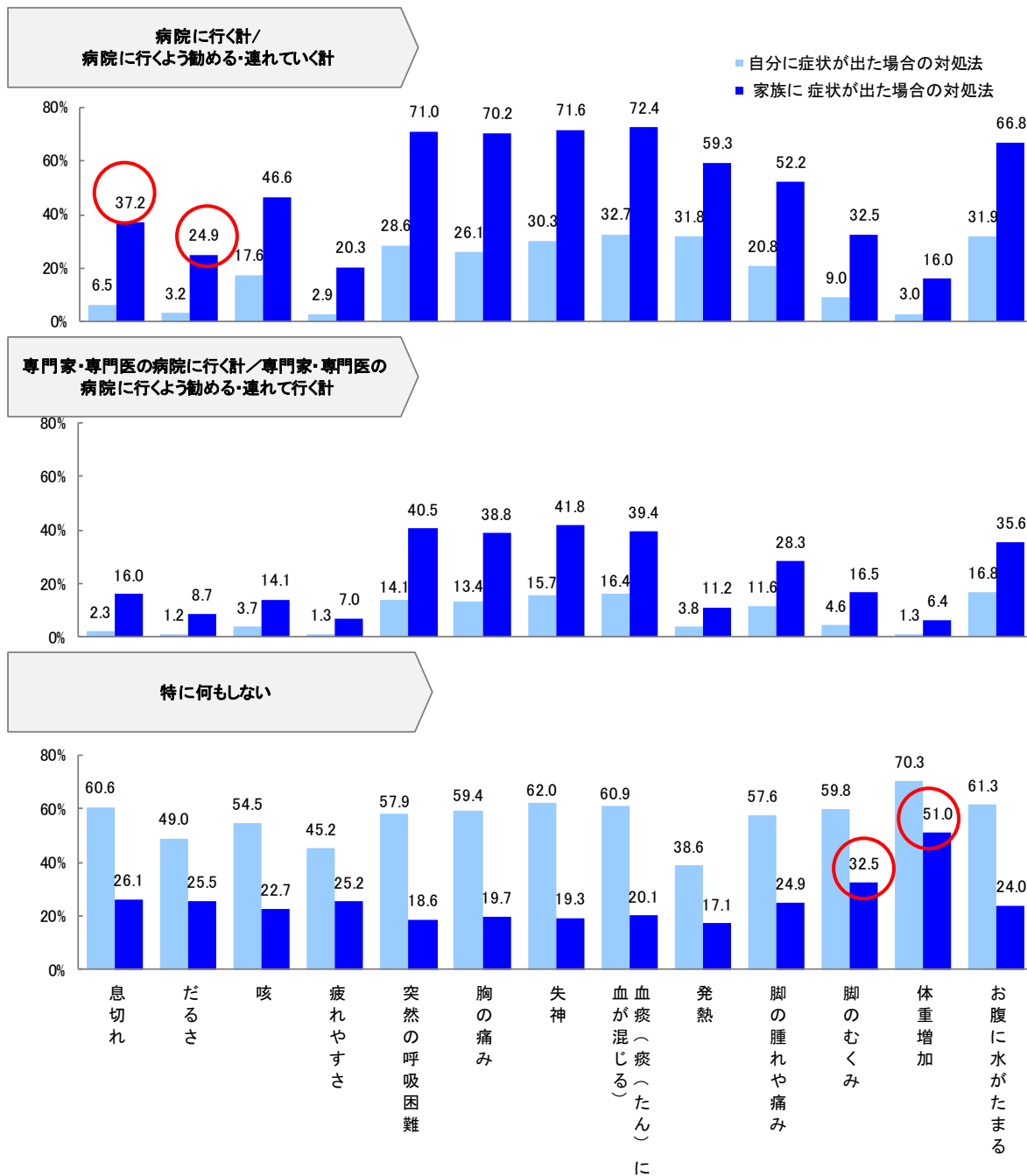
【図3】家族に症状が出た場合の対処法(n=1,000) (%)



	診療科・病棟に連れて行く	内科などに行く	専門科に行く	医療機関に連れて行く	患者・病状に合わせた専門医療機関に連れて行く	市販薬を飲む	周囲の人に相談する	インターネットなどで情報を集める	休息をとるよう勧める	その他	特に何もしない	病院に連れて行く	専門科・専門医の病院に連れて行く
息切れ	24.8	12.5	6.7	1.5	1.7	8.1	38.7	1.1	26.1	37.2	16.0		
だるさ	17.5	6.3	3.5	3.0	1.2	7.0	49.7	1.2	25.5	24.9	8.7		
咳	36.0	8.7	7.4	16.3	1.3	5.6	23.3	1.7	22.7	46.6	14.1		
疲れやすさ	14.4	4.9	2.9	4.0	1.1	5.8	52.4	2.1	25.2	20.3	7.0		
突然の呼吸困難	38.9	31.0	18.6	0.9	2.5	8.9	13.4	1.7	18.6	71.0	40.5		
胸の痛み	38.7	29.6	17.7	0.6	2.0	8.5	12.8	1.3	19.7	70.2	38.8		
失神	38.4	32.8	17.9	0.5	2.1	7.2	10.4	1.9	19.3	71.6	41.8		
血痰(痰(たん)に血が混じる)	40.6	30.4	17.4	1.1	1.4	7.4	8.4	1.3	20.1	72.4	39.4		
発熱	51.4	7.6	5.3	18.6	1.4	3.3	21.0	1.4	17.1	59.3	11.2		
脚の腫れや痛み	27.7	19.5	13.5	2.4	1.9	7.4	21.6	3.2	24.9	52.2	28.3		
脚のむくみ	18.8	11.3	7.2	1.6	1.2	7.8	29.3	6.4	32.5	32.5	16.5		
体重増加	10.5	5.2	2.0	0.9	1.5	8.9	10.9	17.1	51.0	16.0	6.4		
お腹に水がたまる	39.0	28.7	15.6	0.7	1.7	8.2	7.1	1.7	24.0	66.8	35.6		

※横に見て ■ 1位 ■ 2位 ■ 3位

参考: 自分に症状が出た場合の対処法と家族に症状が出た場合の対処の比較



“病院に行く計”は「内科などの一般病院、診療所に行く」、「専門の科のある総合病院に行く」、「疾患・症状の専門医のいる病院に行く」と回答した人。
 “病院に行くよう勧める・連れて行く計”は「内科などの一般病院、診療所に行くよう勧める・連れていく」、「専門の科のある総合病院に行くよう勧める・連れていく」、「疾患・症状の専門医のいる病院に行くよう勧める・連れていく」と回答した人。

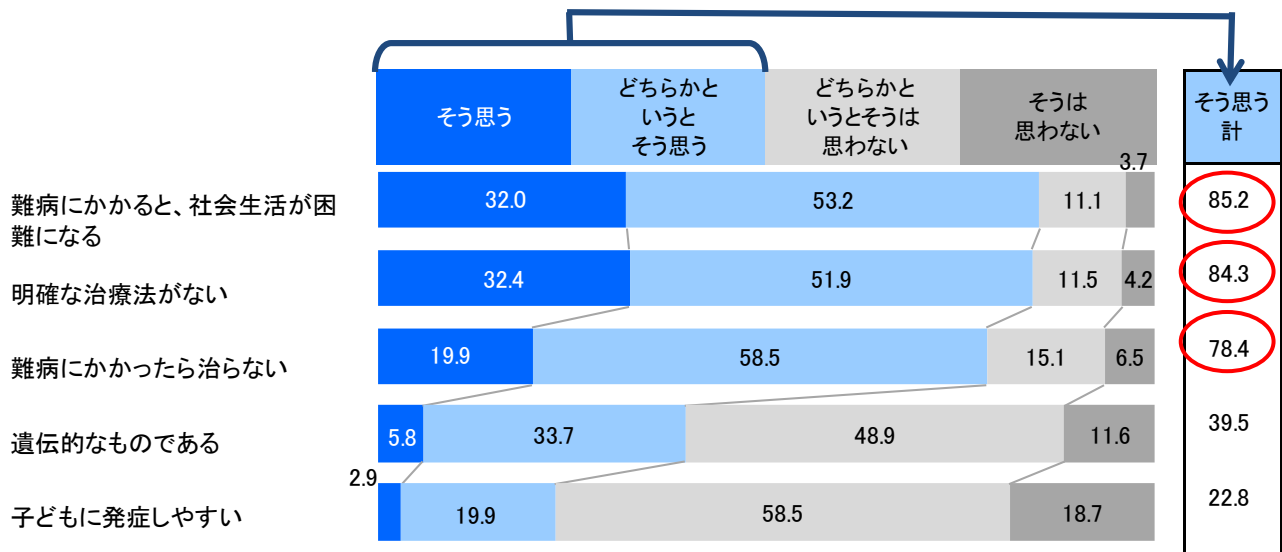
“病院に行く計”は「内科などの一般病院、診療所に行く」、「専門の科のある総合病院に行く」、「疾患・症状の専門医のいる病院に行く」と回答した人。
 “病院に行くよう勧める・連れて行く計”は「内科などの一般病院、診療所に行くよう勧める・連れていく」、「専門の科のある総合病院に行くよう勧める・連れていく」、「疾患・症状の専門医のいる病院に行くよう勧める・連れていく」と回答した人。

■難病に対するイメージは、「社会生活が困難」、「明確な治療法がない」、「かかったら治らない」。

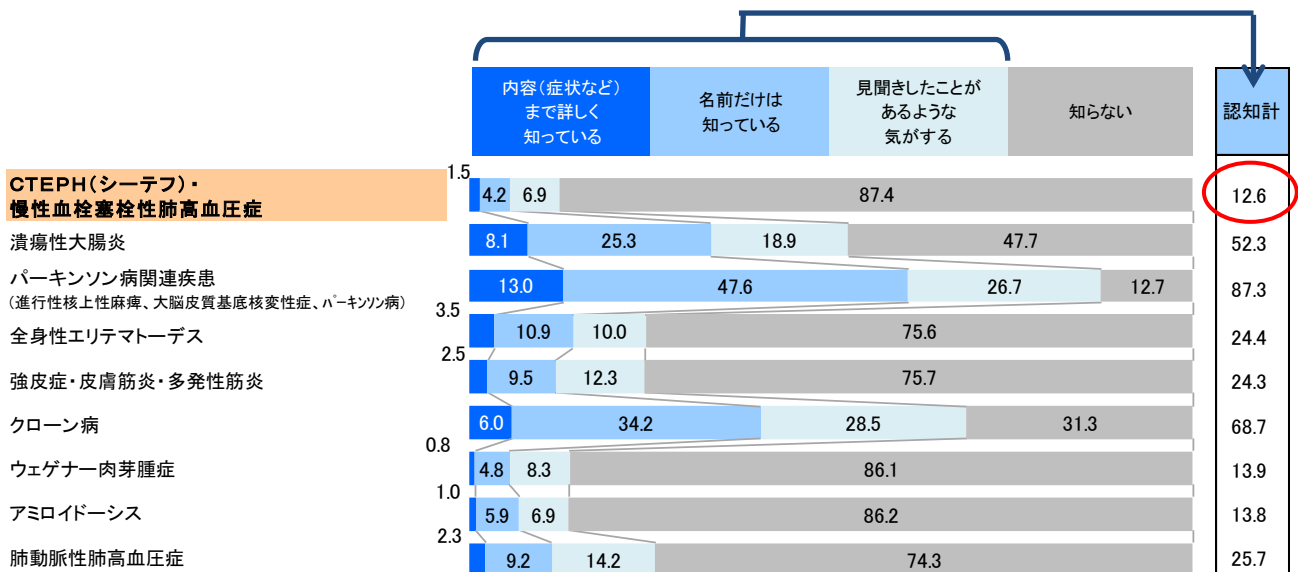
慢性血栓塞栓性肺高血圧症(CTEPH)の認知は1割強でもっとも低い

難病に対するイメージは、「難病にかかると社会生活が困難」、「明確な治療法がない」、「難病にかかったら治らない」とした人が8割前後を占めました(図4)。調査対象の難病の認知について、「パーキンソン病関連疾患」、「クローン病」、「潰瘍性大腸炎」は半数を超えましたが、その他の疾患は半数以下で、特に「慢性血栓塞栓性肺高血圧症(CTEPH)」は、わずか12.6%と、CTEPHと同数レベルの患者数を持つ「肺動脈性高血圧症」や「アミロイドーシス」などの難病と比較しても低い結果でした(図5)。

【図4】難病のイメージ(n=1,000) (%)



【図5】難病認知(n=1,000) (%)

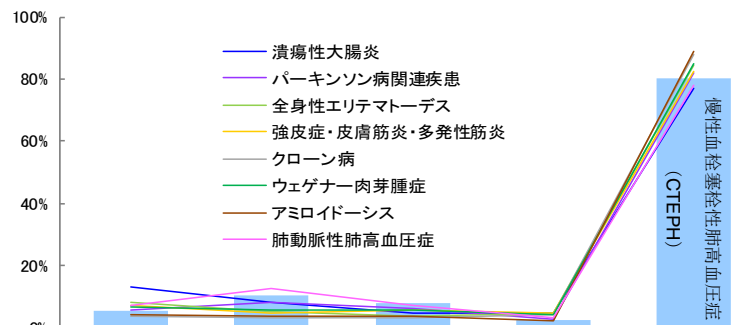


■難病に、「自分も家族もかかる可能性は低い」と捉える人が大半

どの難病においても、「自分も家族もかかる可能性は低いと思う」人は 7 割～8 割台を占め、難病はとかく自分のこととして捉えられていないことがうかがえますが(図 6)、特定疾患医療受給者証所持者数は 85 万人を超えており(※)、日本人の約 150 人に 1 人が難病と闘っているというデータもあります。調査対象疾患の中で、疾患に対する認知がもっとも低かった慢性血栓塞栓性肺高血圧症(CTEPH)にかかる可能性については、80.2%が「かかる可能性が低いと思う」という結果になりました。

※難病情報センター(平成 25 年度)より

【図 6】自分や家族が難病にかかる可能性(n=1,000) (%)



	認 知 者	う 能 自 分 が は か か る 思 可	思 可 親 う 能 性 代 が は か か る	い か 祖 と る 父 母 の 思 可 性 代 が は か	い か 子 と る も の 思 可 性 代 が は か	い か 自 分 も か か る 思 可 性 代 が は か	い か 自 分 ・ か か る 思 可 性 代 が は か
CTEPH(シーテフ)・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	(126)	5.6	10.3	7.9	2.4	80.2	19.8
潰瘍性大腸炎	(523)	13.2	8.0	4.8	4.6	77.1	22.9
パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症、パーキンソン病)	(873)	5.6	8.4	6.2	2.6	82.2	17.8
全身性エリテマトーデス	(244)	8.2	5.3	3.7	4.5	84.4	15.6
強皮症・皮膚筋炎・多発性筋炎	(243)	7.4	4.9	5.8	4.9	82.3	17.7
クローン病	(687)	3.9	3.3	3.1	4.1	88.2	11.8
ウェゲナー肉芽腫症	(139)	6.5	5.8	5.8	4.3	84.9	15.1
アミロイドーシス	(138)	4.3	3.6	3.6	2.2	89.1	10.9
肺動脈性肺高血圧症	(257)	7.4	12.5	7.0	3.1	78.2	21.8

■正しい情報を知ると、「病院に行く」割合が大幅にアップ。まずは病気をよく知り、適切な診療科を受診することが重要

「慢性血栓塞栓性肺高血圧症(CTEPH)」に関する情報を提示した後、改めて症状に対する対処法を聞いたところ、「特に何もしない」が減り、「一般病院に行く」、「総合病院に行く」、「専門医のいる病院に行く」など“病院に行く計”が大幅に増加しました。特に、「だるさ」や「疲れやすさ」については、“病院に行く計”がそれぞれ 5%以下だったのが、3 割以上(36.8%、34.7%)となりました(図 7)。病気のことをよく知ることが、適切な診療科を受診するという意識の向上につながることを示唆されました。

【図7】症状が出た場合の対処法<CTEPH 情報提示前後比較>(n=1,000) (%)

